

プーチンがオバマに断れぬ提案をする

【訳者注】ここに、アメリカとテロリストのつながり方を示す、もう一つの新しい事例が示されている。テロリストはアメリカにとって、味方でもあり敵でもある。“泳がせ”ておいて役に立つ間は使うが、用がなくなれば“殺処分”する。傭兵であれば当然だとも言えるが、やはり「サイコパス」同士の契約という、その本質を掴んでいないと理解できないだろう。

もう一つ、アメリカが現在、ヒトラー政権の末期に近い状態だということが、これや他のいくつかの論文から推測できる。政府内部が割れていることは、ウィルコックの証言からも明らかで、おそらく暗殺合戦が起っているものと推察できる。というより、この有様で内部が一致協力できると考える方が、無理な話であろう。

By Mike Whitney

October 13, 2015

なぜ、ジョン・ケリーは、この戦争が4年半も続いているというのに、これほどシリアについて緊急サミットを招集したがるのだろうか？

彼が慌てているのは、ロシアの空爆作戦が、あまりにも多くの、アメリカ援助によるジハード戦士を一掃し、シリア大統領バシール・アル・アサドを倒すワシントンの計画を、挫折させようとしているからだろうか？

それは確実であろう。過去3週間、シリアの情勢を追っている者なら、そこで本当は何が起きているのかについて疑問はないはずである。ロシアは、ワシントンの地上傭兵隊を組織的に一掃しながら、一方で、テロリストに奪われた広大な土地を取り戻しつつある。これがダマスカスのアサドの地位を強化し、ワシントンの政策をずたずたにしてしまった。これこそ、ケリーが、ロシア外相と会ってまだ一週間にもならないのに、またしても会いたがっている理由である。ケリー国務長官は、何らかの間に合わせの取引をして、傭兵が死ぬのを食止め、正体が見えてきたアンクル・サムのアサドのシリア計画を、何とかして救おうとしている。

火曜日のロイター通信によると、イランが、木曜日にウィーンで予定されている会議に、招待されていたことがわかった。この報道は米議会で激しく非難されるに違いないが、これはロシアが、現在、どの程度までのアジェンダを組んでいるかを示すものである。イランを招待すべきことを主張したのはラヴロフであり、モスクワが今や運転席に座っていることを、

ケリーは認めざるを得なくなった。

このサミットが、ワシントンの“アサド追い出し”要求を 180 度転回させるような、ショッキングな結果をもたらしたとしても、驚くにあたらない。プーチンがこれまで何度も指摘しているように、アサドはどこへも行かない。彼は、オバマ・チームがついに「ジュネーブ・コミュニケ」に合意したときには、シリアの“臨時政体”の一部として残るだろう。これは、最終的に戦闘を終わらせ、安全を回復し、何百万という避難民が祖国に帰ることを可能にする政治的道筋である。

ワシントンは、アサドが留まることを認めることになるはずだが、その理由は、もしそうしなければ、ロシア空軍が空爆を続けて、アメリカに支援された傭兵隊を粉砕するからである。だから容易にわかるように、オバマは実は、この問題では選択の余地がない。プーチンが彼の頭に銃を突きつけ、断ることのできない提案をしたのである。

これは、この戦争が、ロシアやその同盟国にとって **cakewalk**（容易いこと）だという意味ではない。そうはならないだろう。実は、すでにいくつか大きな反撃があって、ISIS がアレッポ - カナサー間道路の急所を占領し、政府からアレッポへの補給線を切断した。これは深刻な問題だが、克服できないようなことではなく、戦争の結果に影響を与えるような問題でもない。これは、対処して乗り越えねばならない障害の一つにすぎない。広い観点から見れば、ロシアの主導する連合はるかに有利で、彼らは各所の補給線を絶ち、弾薬や燃料の貯蔵所を爆破し、戦争を続行する敵の能力を奪っている。だからこの戦争が公園の散歩だとは言わないが、どちらが勝つかに疑いの余地はない。

そしてそれこそが、なぜアメリカが先週、アレッポの主要発電所の爆撃を決断し、都市全体を闇の中に突き落としたかを説明するかもしれない。これは、逃げる途中ですべてを“瓦礫と化す”ことを望むオバマの方針である。忘れないでいただきたいが、地方の飲用水処理（浄化）工場は、電力を必要とし、したがって発電所を爆破することによって、オバマは何万人もの市民を、コレラや他の水を原因とする病気に罹らせることになる。明らかに、我々の病院攻撃大統領は、女性や子供を殺すというような些細なことを、気にしていない。英紙デイリー・スターの次の記事を読んでいただきたい――

シリアとイラクの米主導連合軍が、シリアのオマール油田に大規模な攻撃を行った。これは、ISIS のカネを生み出す能力を殺ごうとするミッションの一部だ、と連合軍報道官は語った。

作戦指揮官のマイケル・フィラノフスキー少佐は、バグダッドで記者団に対し、先週水

曜日の空爆は、Deir el-Zour 町近くのオマール油田の、ISIS に支配された石油精製工場、司令部・支配センター、それに輸送の要衝を襲撃したものだと言った。連合軍報道官スティーヴン・ウォレン少佐は、この襲撃は 26 の標的を破壊し、昨年空爆作戦を始めて以来の、最も大きな成功の一つとなったと述べた。

この精製工場は ISIS にとって、月あたり 170 万から 510 万ドルの収入になっている。

「これは非常に特殊な標的で、彼らの石油を売る能力、地下から汲み出す能力、それに輸送する能力を、長期にわたって無能化するものだった」とフィラノフスキーは言った。

ISIS は、自給自足できる国家を建設するための歳入を得ようとして、イラクとシリアに、多くの石油精製工場や他のインフラを占領した。（「米主導軍が ISIS 支配下のシリアの油田を攻撃」 Daily Star）

<https://www.dailystar.com.lb/News/Middle-East/2015/Oct-22/319869-us-led-forces-strike-isis-controlled-oil-field-in-syria.ashx>

ISIS の標的を求めて 1 年もかかって砂漠をくまなく探したあげく、米空軍が、この忌々しい石油精製工場のありかをやっと突き止めた——とは驚くべきことではないか?! 西側メディアがこの奇妙な話を無視したのは頷ける。オバマには決して、ISIS の主たる資金源（石油販売）を断ち切る意図はなかった、としか考えられない。彼が本当に望んでいたことは、テロリスト集団が、ワシントンの戦略目標を達成するのに役立つ限りは、栄えてほしいということだった。プーチンは最近のインタビューでこれを指摘させている——

<http://russia-insider.com/en/us-link-isis-putin-simplifies-journalist/ri10715>

「傭兵たちがイラクとシリアで油田を占領している。彼らは石油の汲み出しをやり始め、これを買う者がいるのだ。この石油を買う側に対する制裁はどうなっているのだ？」

アメリカが、誰がそれを買っているか知らないと、あなたは思いますか？

ISIS からその石油を買っているのは、彼らの同盟国ではないのか？

アメリカは、彼らの同盟国を動かす力をもっていると、あなたは思いませんか？ それともポイントは、彼らが同盟国を動かしたくないということだろうか？

プーチンは、ISIS の石油猿芝居に決して騙されはしなかった。彼は、フィナンシャル・タイムズが、この問題についてとても面白い記事を書いた、そもそもの初めから、これが茶番

だと知っていた。それは、ISIS には独自の“首切り役”グループがいて、それに“必要とされる経験”をもった技術者には“かなりよい給料”を与えられ、“見込みのある雇用者には人間資源省に応募する”ことが勧められている、という記事だった。

ISIS の「人間資源省」?? あなたはこれまでに、これほど滑稽な話を読んだことがあるだろうか? (話の全体はここで読める。) <http://www.ft.com/intl/cms/s/2/b8234932-719b-11e5-ad6d-f4ed76f0900a.html#axzz3pb1VLBFr>

NPR とのインタビューで、FT ファンタジストの Erica Solomon (この記事を書いた人) は、なぜアメリカが、油田や精製工場を爆撃できなかったかを説明している——
<http://www.ft.com/intl/cms/s/2/b8234932-719b-11e5-ad6d-f4ed76f0900a.html#axzz3pb1VLBFr>

ISIS がやってのけたことは、石油汲み出し作業の支配権を奪ったことである。これが賢明なやり方だったのは、ここは爆撃されない場所だからである。もしそれをやれば自然災害を起こすだろう。だから彼らは石油を汲み取ると、直ちにそれを地方の業者に売っている。トラックを手に入れ、タンクにオイルを満たすことのできる者なら誰でも、お客になっている。

ところがそれは今、マイケル・フィラノフスキー少佐を止めることはできなかった——ということらしい。彼は、これらの ISIS 精製工場を、何の躊躇もなく爆破したようである。ということは、ソロモンの「自然災害」話が、完全なウソだったことになる。しかし、これがすべてウソだったとしても、ではなぜ米空軍は、今、これらの標的を爆撃する決定をしたのだろうか? 何が変わったのだろうか?

この攻撃のたった 1 日前に RT に載った記事が、その手がかりを与えている——

ロシアの飛行機は、イスラム国 (IS、ISIS、ISIL) が、イラクからシリアへの補給のために使っていたルートを、ユーフラテス川にかかる橋を爆破することによって、切断したとロシア軍参謀長は話した。

「Deir ez-Zor 近くの [シリアの] ユーフラテス川にかかるこの橋は、IS の補給線の重要ポイントだ。きょう、ロシアのパイロットたちは、この標的に対し外科的な大攻撃を行った」と、ロシア軍参謀長副官アンドレー・カルタポロフ大佐は、木曜日のニュース・ブリーフィングで話し、テロリスト集団の武装と弾薬の補給ルートが切断された、と付け加えた。(「ロシア空軍が、ユーフラテス川の橋を爆撃することによって、ISIS の補

給線を切断」 RT) <https://www.rt.com/news/319499-russia-airplanes-bridge-euphrates/>

これでわかるだろう——ロシア軍が、ユーフラテス川にかかる生命線的な橋を爆破し、石油の輸送を不可能にした。そして次に起ったことは、案の上、アメリカが、目に見えるすべてをなぎ倒す、焦土作戦モードに入ったということである。偶然の一致？

——ではありえないだろう。この成り行き全体は、あの強力な CIA が、ペットのように可愛がっていたシリアでの計画を見切って、退出し始めたことを示唆する。(注目すべきことは、ISIS が、西側プロパガンダがそう思わせようとした、1日のオイル収入が100万ドルになるような、自足的な企業販売契約業者などではなかったことだ。それはすべて、湾岸同盟国やおそらく CIA のブラック作戦が、これらの殺人狂どもを資金援助していた事実を隠すための、隠ぺい宣伝の一部である。)

いずれにせよ、ロシアの介入は、ワシントンを強制して、そのシリア政策を考え直させることにある。ジョン・ケリーが戦闘を終わらせるために、後ろ向きになって努力している一方で、オバマは、モスクワとの対決を挑発することなく、彼の右翼の批判者を宥めるような政策をひねり出そうと働いている。これこそ本物の綱渡りだ。しかしホワイトハウスの宣伝チームは、何とかやり通せると考えている。NBC ニュースの下の箇所が参考になる——

国防長官アッシュ・カーターは、きょう、アメリカはイラクとシリアの ISIS 軍に対し、「地上での直接行動」を公然と開始することを明らかにした。

上院軍事委員会に対する火曜日の証言で、カーターは言った——「我々は ISIL に対する日和見主義的な攻撃において、有能なパートナーたちを支援すること、…また空からの攻撃であろうと、地上の直接行動によってであろうと、そのような使命を直接的に果たすことを躊躇するつもりはない。」(「カーター長官：アメリカは、イラク・シリアで“直接地上行動”を始める予定」NBC ニュース)

<http://www.nbcnews.com/news/us-news/sec-carter-direct-u-s-action-ground-iraq-syria-n452131>

実情はこれより悪いようだ。実際のところ、オバマは、鷹ども(ヒラリー・クリントン、ジョン・マケインたち)が要求するようなエスカレーションを行う勇気をもっていない。いかなる“安全地帯”も“飛行禁止ゾーン”も、またモスクワとの流血の惨事の危険を冒すだけの、他のどんな挑発も起こらないだろう。オバマが求めているのは、ワシントンの戦争屋たちの怒りを買うことなく、引き下がることを可能にし、メンツをつぶさない最上の戦略であ

る。これは難しい注文だが、国防長官アッシュ・カーターが、もしかしてうまく行くかもしれない計画を考え出した。次は **The Hill** (米議会週刊誌) からの記事である――

国防長官アッシュ・カーターは、火曜日、政府はテロリスト集団を敗退させる十分な努力をしていないという批判が何か月も続いた後、イラクとシリアのイスラム国への圧力を強める、米軍の新しい計画を説明した。

「我々が求めている変化は、私が“3つのR”と呼ぶもの、**Raqqa, Ramadi, Raids** によって説明することができる」と、カーターは上院軍事委員会で証言した。

第一に、カーターは、米主導の対 **ISIS** 連合軍は、穏健派のシリア軍を支持してラッカ――テロ集団の砦であり行政上の首都――を攻めさせると言った。

長官はまた、1 ダースほどのグループからなる“シリア・アラブ連合”を装備させる新しい方法を追究する考えだと言った。

「これまでのアプローチは、完全に新しい兵力を戦闘に送り出す前に、シリアの外で彼らを訓練し装備するものだったのに対し、新しい方法は、すでに **ISIL** と戦っている老練のグループ・リーダーと協働して、彼らに装備と訓練を施し、空軍によって彼らの作戦を援護することだ」と彼は言った。

彼はまた、連合軍は、追加の米および連合軍の航空機によって、空からの作戦を強化することができ、より程度の高い、より激しい攻撃が可能だと言った。

「ここには、我々の情報が改善されるにつれて、**ISIL** の価値の高い標的と、彼らの財政インフラの致命的柱である石油事業に対する、より盛んな攻撃も含まれる」とカーターは、**ISIS** の別名を使って言った。(「ペンタゴン・ヘッドが **ISIS** 戦の新しい計画を明かす」 **The Hill**)

<http://thehill.com/policy/defense/258187-pentagon-chief-unveils-changes-to-isis-campaign>

ここに何か新しいものがあるだろうか？ これは大きな空威張りの計画にすぎない。

より多くの「価値の高い標的」を殺すつもりだと？

おっとっと、それは、これまでもずっと目標になっていたではないのか？

ここに現れているのは、ただ、オバマが時計を追い越して、彼が任期を終了し、彼の最初の大きな役目を片付けるまで、この厄介な仕事をあとへ廻そうとしていることである。彼が絶対に嫌だと思っていることは、彼の任期の最後の年に、クレムリンとの言い争いに巻き込まれることである。

不幸なことに、オバマが遭遇しようとしている問題は、プーチンが鞭を鳴らして、戦争機械を回れ右させることはあり得ないということである。モスクワがシリア介入を決定するには長い時間がかかった——展開する戦力を整え、連合を結び、戦闘プランを立てるのに長い時間がかかったように。ロシア人は戦争を軽く受け取りはしない。だから今、彼らがいったん球を転がし始めたら、この仕事が終わり、テロリストの大半が絶滅するまで、やめはしない。これは近い未来に休戦はないことを意味する。プーチンは、ひとたびモスクワが武力を使い始めたら、勝利を得るまでそれを継続することを、証明しなければならない。その勝利は“アレppoの解放”と、それに続くトルコ-シリア国境の封鎖解除という形でやってくるだろう。それとも彼は別の目標を描いているかもしれない。しかしそれは、何よりもまず信用の問題である。もしプーチンが引き下がったり、躊躇したり、少しでも決意がぐらつくところを見せたら、ワシントンはそれを弱さのしるしと見て、付け込もうとするだろう。だからプーチンは、この問題では、最後の苦い終結を見るまで引くことはできない。少なくとも彼は、ロシアが関わったら必ず勝つということを、ワシントンに証明してやらなければならない。

これはワシントンが聞いておかねばならぬメッセージだ。

(マイク・ホイットニーは、ワシントン州在住、 *Hopeless: Barack Obama and the Politics of Illusion* (AK Press) の共同執筆者。この本はキンドル版でも購入可能、連絡先は、fergiewhitney@msn.com)